

年の始めにあたつて

惣津律士

謹んで新春の御慶びを申し上げます。本県の畜産は年と共に躍進して参りましたが、これは一偏に読者各位の御精励の賜ものであります。この紙上をかりて、心から御礼を申し上げます。

米の余剰処理問題から発した総合農政に於いては、從来米に重点が指向されていました施策が、今後畜産、果樹などに大き

く振り向けられるものと思いますが、未だ前近代的要素をもち、成長基盤の弱い畜産に於いては、これが受入れに際して特に強調したいのは、生産から流通、消費を通じて、常に指摘されながら改善されていかない諸々の問題の解消が、國の強力な指導で行なわる事であります。

そうしなければ総合農政の実施は併々容易に進み難いと考えて居ります。



日本の畜産が今後如何にあるべきか。お互いに真剣に考えて決論を出す事が参りました。私は、本年が畜産にとって栄光の道への第一歩の年でありたいものと期待して居ります。

本県の畜産は数年前と比較して大きく変化して居り、新しい形態の畜産がぼつぼつ誕生しつつあります。

併し何と申しましても、国際競争力に打ち勝つ畜産に成長する事が結論でなければなりません。

皆様には希望を以つて本年も引き続き頑張って頂き度く存じます。

本年の抱負



渡辺明喜

明けましておめでとうございます。新しい年を迎えるあたり、酪試着仕のと四十三年を省みながら、今年の抱負を申し上げてみたいと存じます。

× ×

酪試験場における主な業務は申し上げるまでもなく、乳牛の改良増殖、酪農研究調査、畜産技術講習生の養成等がありますが、これら業務の中で、昨年特に新しく展開をみ

た問題としましては、第一に乳牛の凍結精液について全県的な実用化に踏み切ったこと、第二に試験研究部門では、①雌子牛の徹底した省力管理をねらいとした野外集団哺育方式の試験に着手したこと、②豚の萎縮性鼻炎の清浄化については、順調な経過が見込まれる中で試験期間を一年間延長（四十四年まで）して、清浄化推進のための基礎資料を得るため、県連会長の特別のご配慮と支援をいただき、県下主要酪農地帯の酪農家を対象に酪農經營規模拡大過程追跡調査を実施してきたこと、第三には県立農業大学校併設され、養豚専攻第一期生の入学をみ

さて本年の中心的な課題としましては、

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

×

試験場のあいさつ

とし、一部里山の草地に飼料資源を期待する酪農經營を今後の中的な形態と想定し、この場合における粗飼料の生産技術とその利用技術、多頭飼養技術、暑熱産試験場がそれぞれ分担協力することを組み立ててをはかるものであります。そして粗飼料生産技術における試験研究課題については、岡山農試を中心に兵庫、鳥取、広島、香川、徳島の各農試がまた乳牛飼養関係技術のそれについては岡山酪試を中心とする中国、四国各県畜産試験場がそれぞれ分担協力することを申し合せている。

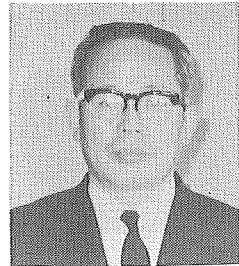
ともあれ、農業社に亘る酪農の共同化するよう努力しては、なお以上共同研究実用化に伴なう優良の計画的配布による努力をしたいし、

縮性鼻炎清浄化の貴重な実績をもとに、新たに S.P.F.豚（特定病源不在豚）の畜産目的のための集団交換是非についてその試験を始めてゆく考え方であります。

微力ながら今年から取り組みたい抱負を申し述べ、関係者皆さんの一層のご理解とご支援をお願いするしだいでござります。

しも同時に発表されているが、数字のうえから見ても国内での完全自給には、ほんとうに惑があるのである。

年頭のあいさつ



農産物の需要と見通しによると、農産物の需要は、国民の経済成長発展に応じて高度化しつつ増大しており、今後もこの傾向は持続するものと見られ、昭和四十一年度と五十二年度一〇年間の対比によると見通しは、国民一人当たり消費量、牛乳乳製品は約一・九倍、肉類は約二・二倍卵は約一・六倍、野菜は約一・二倍、果実は約一・六倍に増加するものと見られ、米は約一〇%程度減少するが、人口增加などにより総需要量は現状の横ばいないし、微減と見られている。

このように、消費構造のシェアは、畜産物に大きな期待が寄せられている。また、これらの需要に見合う生産の見通

における経済的、合理性に基く経営と、飼養管理技術の革新により、生産の増強が大きく期待されるところである。

これに対応する方策は種々あり、積極的に推進してゆく必要があるが、行政、経済、技術の三味一体の実をあげてゆくことが最も重要であろう。また、これらの機関にある各位の意識の統一と連絡協調を強く望まれるのである。

× × ×

そこで、和牛試験場における業務は、和牛に関する試験研究、和牛の改良増殖（種雄牛の集中管理と精液の採取、配布）和牛後継者、技術者の養成（農大生の教育）の三本の柱を軸として推進し、和牛の改良増殖、経営、技術開発の一翼を担

つてゐるのである。

X . X . X

和四十一年秋、新築の落成を見たのであるが、施設の整備拡充も未だ十分でなく、年次計画により整備しているのであるが、試験研究基礎の大半はでき上っており、昭和四十四年

分の試験研究は、國家の試験研究用でき得る課題を中心に研究しているが、畜産に関する試験研究は作物部門と異なるが、時間と金を多く必要とするし、正確を期するためには年次的に反復実施する必要も生れてくる。そこで、四十四年度においては、国の方針に基き近県試験場との共同研究による課題を取り上げ、より一層充実した試験研究を実施したい方

能力の検定、遺伝的形質の検定など一連の能力の開設を行ない優良種雄牛の確保と、優良精液の高度利用により和牛改良希望により短期研修生を受け入れ、後継増殖に一層貢献してゆく。

第三には、農業大学校和牛専攻生が昨年十二月一日七名入場、実務に関する教育を主体に勉学に励んでおり、さらに、希望により短期研修生を受け入れ、後継

畜産発展の年であることを期待し、お互
いに研究、努力、協調して行きたいこと
を誓い年頭のごあいさつといたします。

金
豆
仙
居



新しい年を迎える
めでとうございます。
この環境下において日本の畜産業は開
発する情報を積極的に蒐集し広い視野の
畜産業の進展は目
覚しいものがあり、
さらに新農政の展開
をはじめ、種々の情
下に、世界の畜産の中において、将来、
前進しつつある日本経済の中ににおいて、
自から研究努力し乍ら経営の改善をつき
進めることが肝要でありましょう。

こゝでしばらく畜産に範囲を狭めてみますと、私達が直接担当している養鶏について、その中の育雛においてであります

- 3 -

さて、思いを転じて身近

な事をいさ

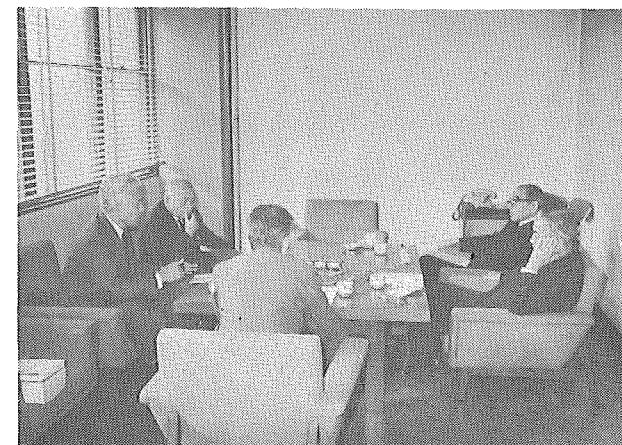
うか。
いて考え直してみるべきではないでしょ
う。この既成概念を、じっくり落つ
います。

見回しますと、過剰保護すなわち過保護の字句が、直接間接に関連する事象が

すなわち、ブロイラーの育雛の場合は短期間に促成的に育成し肥育することが経済的に有利であることは論を待ちませ

過保護的産業政策、高米価依存の農政
さらに畜産に及んでは家畜家きんの育成
期の過保護的飼養管理、人間を対象として
ます。

たものでは肥満児、教育ママ、非生産的大はら、拡大解釈によれば女性上位など



新 春 放 談

出席者

（岡山県酪連会長）
山 上 茂 吉
（岡山県経済連常務理事）
三 宅 忠 雄
（岡山県農林部畜産課長）
橋 本 精
（岡山県農林部畜産課長）
蔵 知 毅

橋本・昨年はN.D禍、炭ソ禍と、畜産界にとてきんざんの幕明けでしたが、その後好材料が次々と出てきていい年であったといえるのじゃあないですか。その口火を切ったのが三月の新和牛試験場の落成でしょう。和牛界を中心に畜産人に意気込みができましたね。それから十月の全日本ジャージー共進会の開催です。畜産関係者が一致協力してすばらしい共進会として成功裡に終ったばかりでなく、岡山のジャージーは全国一の水準にあるということで意氣があがりましたね。

また、統計の数字をみますと、鶏の飼養羽数が從来全国で五、六位だったものが、一躍三位にのしあがっており、また県下の農業粗生産額が、これは四十二年の成績ですが一、〇〇〇億円を突破しており、このうち養鶏は一〇〇億円を越えておりますね。

一方、伝染病を出した試験場は一時は萎縮しましたが、禍を福となすのだとえどおり、養鶏試験場ではN.D病ワクチネーションの新しい方向を見い出している

な対策、措置が必要なことはもちろんであります。

しかし一方、既成概念を検討のうえ過保護から脱却し、自然条件を巧みに活用した飼養管理により前述したように揃った強健な若雌を育成し、生産能力を最大に発現させ、経営の合理化に役立たせることも大切なことであります。

試験場のあいさつ

辰巳は重要なわれ
おりますが、数多く
の病気特に白血病の
発生等による育成率
の低下が大きな問題
になってる現今に
おいては、育種・飼
養管理、疫学、予防
衛生等の各面におい
て合理的にして適切

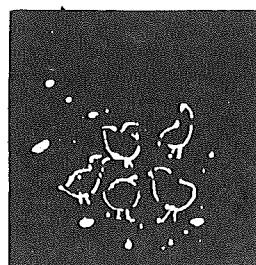
でもそのことがいえ大切なことであると賛同をいたゞき、家畜家きんに共通することかと思いを新たにし、内心ほほえんだものであります。

家畜家きんの育成における肥満児的問題と人の肥満児とを比較し考察することも何かの意義があるうかと探ってみましたがところ、共通する点があるとともに、関連して感を深くする事があります。

石河氏によると、肥満児は一種の過保護であり、要因的事項としては、環境的には都市に多く田舎に少ない、被雇用者の家庭よりも雇用者の家庭に多い（これを見別の面で物語っているのは私立学校は公立学校の二倍）。

肥満児は肉、米、油類を好み野菜が嫌いな場合が多く、主食、間食をとり過ぎる傾向がある。肥満児の状態としては小学校時代には性差がないが、男子は中学

畜産業発展のために適切な保護助成は当然重要なことであります。が、部分的なことである家畜家きんの育成においての過保護について改めるに止まらず、若しそうした過保護的なものがありこの翼下に甘えているようなことがあれば、広い視野に立って大局的に考察し検討のうえ改善して畜産業の健全な発展に役立てることが肝要でありましょう。



化血研の 動物用 ワクチン・血清・診断液

財団法人 化学及血清療法研究所
熊本市古京町3番1号 53-6331

事務所=東京・大阪・長崎 支 所=阿蘇・鹿児島

とは、畜産の立場からいえばはなはだ迷惑な話なんですね。低収田を畜産利用したのでは儲からないといったデータがここにあるんですが、これは邑久郡と勝田郡で調査しております。

邑久郡のある酪農家が平均反収一〇俵の水田を転換して、飼料作物を裏作で一五、五〇〇キロとっているのです。これだけ収量をあげておれば、たとえ一〇俵とれる水田でも、地代計算しても収益計算しても飼料作物を作って酪農を經營したほうが儲かるのです。

ところが勝田郡の例は平均六・五俵の作柄で、飼料作物を作った場合も収量が五、八〇〇キロなんですね。これだと六・五俵の水稻のほうが有利になっているのです。

となると山田の畜産利用には問題があ

我々が描いていた理想の形になってきて
いますよ。酪農でいえば、農家は搾乳牛
中心で、育成は広い土地の共同育成場で
行なうといった形ですね。大規模になれ
ば形態 자체がこういった移行を示さなけ
ればいけないでしょうし、また大家畜は
土地に立脚しなければ成り立たないもの
ですから、土地の利用形態も考えて、大
きな土地基盤への移行も当然おこるでし
ょうね。大型化した分業がなされなけれ
ばならぬ。

た特殊米は、むしろワクを撤廃してしまって、自由販売にするなど同じ種作でも適地適作で品質のいいものをどんどん作って農家の增收を図るといった方向にもつていけばよいので、不便な山崎の小さな田はもうやめてしまえばいいんですね。蔵知・そのとおりで、三〇万ヘクタールの転換といつても、一番のやり玉にあがるのが山田ですね。ところが、それを畜産にどういかすかになると、湿田で使い道のない田が対象になるんですね。

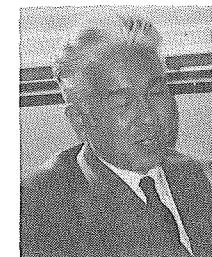
橋本・そういった条件の悪い低収田を畜産利用すればいいんじゃないかということは、畜産の立場からいえばはなはだ迷惑な話なんですよ。低収田を畜産利用し

低収田をどう利用したらよいかとなると
その低収田をとりまく畠とか山を含めて
大きく囲って畜産利用に用いれば、その
低収田も生きてくると思うのです。
蔵知・そのとおりでしょうね。米作をや
るから廃水ができて湿田になるのだろう
うから、周囲の田とも全部転換して里山
利用をかねて畜産利用すればよいでしょう
うね。しかも、そこでは飼料作物を作る
のではなく、牧草をまいて放牧で高度に
利用するといった畜産利用ですよ。

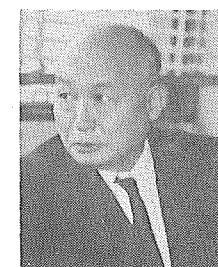
わけのわからぬ総合農政

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a dark suit and tie. He is smiling slightly and looking towards the camera.

山上茂吉氏



橋本精氏



物 津 律 士 由



三宅忠雄氏



藏 知 豪 由

からでも清潔な豚を作り出す方法を発表しましたね。和牛試験場においても、従前から続けておりました急傾斜地の草地造成、またその草地を利用しての育成肥育試験の成績もある程度まとまつたようあります。

昨年はこのように、尻上りにムードが盛り上った年でしょうね。

惣津・ND禍にはずいぶんぐらつきまし

討して大変でしたが、鶏病を中心的に研究しようということになつて……。こういったことを機会に、県行政を中心にして県下の畜産界がまとまり出した一年目ということができませんかね。

それに一昨年あたりから米があまるようになり、それにからんで夏頃から総合農政ということがやたらと目につきますが、これが今後の大きな問題でしょうね

てもこれは危険ですよ。
物津・米麦中心から脱皮するんだといつたご都合主義、便利主義的なものとして総合農政がうけとられており、皆んな信
用していないですよ。ということは誰も期待しとらんということですよ。

食べたい需要者は多いのですね。その点等級間隔差をうち出しても銘柄間隔差をうち出しても岡山の米はまだ売れるのですね。岡山県では減反したり転換する必要はそうないんですよ。それをよく考えないで、岡山県も畜産にすぐ飛びついたんでは方針を誤ると思うんです。

やはり岡山では米というものを中心にして、プラス醣農、和牛、養鶏といった複合経営形態といったものは変わらないと

三宅・私にはその総合農政というものの
中身が理解できないんですよ。抽象的に
はやれ畜産だ、そ菜だ、果樹だといって
おりますが、米があまつてきたから畜産
をやるんだということでなしに、今後の
日本の経済なり国政を考えて、日本の畜
産はここまで自給することが必要で、そ
のための施策はこうだといった基本的な
線を打ち出してもらわぬことにはね。

もっていかなければいかんと思うのです。
惣津・総合農政の裏をかえせば総合食糧
計画の確立なんですよ。単に転換なんか
でなく、日本の食糧計画をはっきり打ち
出して、そのための施策をいかにするか
つまり生産、流通、消費におけるネット
の解消が問題になるべきですよ。
三宅・國の施策はいろいろありますよ
が、岡山県という立地をふまえた場合は
若干考え方を違えなければいかんと思う
のです。

はたしてエーのあた・年になるか
あちこちで裏作をどうするかが問
くなつてきたが、さりとてイタマ

もっていかなければいけんと思うのです。三宅・國の施策はいろいろありました。岡山県という立地をふまえた場合は、計画の確立なんですよ。単に転換なんかではなく、日本の食糧計画をはっきり打ち出して、そのための施策をいかにするかつまり生産、流通、消費におけるネットワークの解消が問題になるべきですよ。

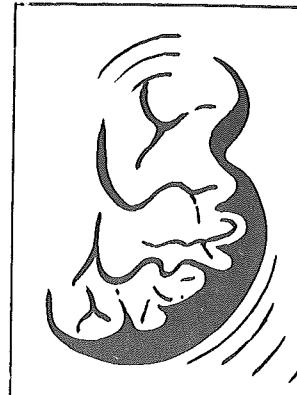
米はあまつてきているが、うまい米を食べたい需要者は多いのですね。その点等級間隔差をうち出しても銘柄間隔差をうち出しても岡山の米はまだまだ売れるのですね。岡山県では減反したり転換する必要はそういうんですよ。それをよく考えないで、岡山県も畜産にすぐ飛びついたんでは方針を誤ると思うんです。やはり岡山では米というものを中心にして、プラス酪農、和牛、養鶏といった複合經營形態といったものは変わらないと思うんです。その点、岡山県独自の考えを打ち出すべきだと考えます。

山上・私も百姓の出ですが、岡山県の立山

年	の始	めにあた	つて	年
特	集	座談会	新	春放談
アメ	リカ	・カナダ旅行記	(二)	惣津律士
ナガ	イ	・ハナオ	5	
日本	家きん	学会秋季大会	本年	の抱負
講演	から	青山 審	渡辺明喜	1
養鶏農協	のペイジ	12	年のあいさつ	渡辺滋樹
アメ	リカ	14	2	3
ナガ	イ		年頭偶感	川崎 晃
日本	家きん		橋本 精	
講演	から		蔵知 賀	
養鶏農協	のペイジ		出席者	惣津律士
アメ	リカ		試験場	のご挨拶

2

イラーの裏作經營などという方法もててきているようですが、惣津・裏作ブロイラートはどんなものですかねえ。



三宅・価格の問題ですよ。乳用雄子牛が
うまく流通にのらないといいますけれど
も、小売店頭に乳用牛の肉として売って
いるのではなく、和牛肉にきざみ込んで
売っているのが現状でしょう。昨年の十
一月に阪神の見本市へ、経済連が肥育し
た乳用雄子牛を五頭もっていって売った
んですが、ちょっと安くしたらあつとい
う間に売れましたよ。

現在枝肉価格は下っていますが、とこ
ろが店頭の小売価格が下ったかというと
なんら下ってないんですね。この間、京
大の上坂先生もいってましたが、京都の
店頭をみていて、二五〇円のかなりいい
肉がだんだん下って二〇〇円までになっ
た。これなら売れるかなと思ってみてい
るところ、ボーナスが出る頃になつてあつと
いう間に二五〇円にもどったといわれる

橋本・昨年の十月頃ですか、輸入肉の取出を一〇〇グラム五五円でしたらまたたく間に売り切れたそうですね。それを普通に料理して食べてみても、まずいことなどもなかつたそうですよ。そうすると、七〇〇円もしないと採算がとれないんだといつた和牛肉の生産経営は考える余地多分にありますよ。以前だと年間二頭か三頭出荷する、いわゆる高値をねらうという肥育形態でしたが、現在は年間常時五〇頭ぐらい飼養して回転させていく、年間の所得をねらった方向になっていますからね。橋本・確かに肥育形態は変ってきましたね。こんどは牛の供給体制ですよ。牛産のほうは相変わらず一と三頭飼いが多いようですな。

のですが、一・二頭飼っているものに貸付牛を一頭与えても生産形態はなんら変わらない、価格がちょっと下がれば止めてしまう。それより四・五頭飼っているものに貸付牛も三・四頭貸して大型化しないと効果がないという話なんです。

国なり県、団体が行っている貸付牛制度を変えて、大型化の可能性のあるものにどんと投資をしないといかんということがあります。

橋本・早く一農家が繁殖牛を六・七頭飼えるような体勢にしないといけませんね。これだけ飼っておれば、めず子牛は六・七カ月飼って出荷する、おす子牛は若令肥育して出荷するという型にすれば、常時一〇頭から一三頭は飼っていることになりますね。ここまでやれば、うん儲かつたなという気持ちになると思うんですけど（笑）。

蔵知・從来の生産地の箱マヤの考えが残っている場合はなかなかむずかしいでしょうね。この箱マヤをいかに改良してたくさん牛をつなぐかということ、里山をいかに利用するかを考えないといけないと思います。また根本は生産者の考え方を変えていかないと、いくら頭数を入れてみたところで永続きしませんね。

橋本・里山利用も重要ですが、これには権利調整がからんでやっかいでしょ。多くの場合、利用できるような山は牛を銅っていられない人がもってたり共有地に

ところが一方変ったところでは、ブロイラーの裏作經營などという方法もでてきているようですが。
惣津・裏作ブロイラーとはどんなものですかねえ。
蔵知・水稻を刈った跡をビニールでおおい、その上に堀立小屋を作るのです。竹とビニールを使つたビニールハウスみたいなものを作ります。そこで水稻の植付けまでに切り上げてしまふやり方です。それがや菜のビニール栽培と結びつかないだらうかと考えてゐるようですね。鶏糞はや菜に環元して、畜産では糞尿処理に一番困っているわけですから、や菜作りと結びつけば最も効率的ですからね。
山上・養鶏家としては、まあ卵価、ブロイラー価格、飼料価格ともだいたいうまいきまして、また問題でしたN.D病も三位、粗生産額は一〇〇億円突破という具合で、めでたいトリー年の新春を迎えまして、今年はなんとか我々の当り年にしたいと意気込んでゐるわけです。特にブロイラーは、需要が三十八年から毎年三十五二年の需要が鶏卵の場合一八九一〇バーセントづつ増加をみせてきておりますからね。
農林省から鶏卵、鶏肉の長期需給見とおしがでていまつたが、それによると、五十二年の需要が鶏卵の場合一八九一〇

九年六万トンで供給が一九一六万トンとほぼ均衡がとれています。ブロイラーハウスの需要で年間約六二二万トンとなっていますが、これにそったすう勢をたどるのではないかと思います。

藏知・食肉も和牛肉に依存しておそれませんから、豚肉・鶏肉に比重がうんとかかってきましたね。

惣津・食生活も簡素化されるとますますブロイラーなんかが好まれるでしょうからね。

山上・また生産が早いですから。ふ化して六〇日すればもう出荷できるのですから、他のものとはテンポが違いますよ。

ただ我々が心配しているのは、山間などの小区画の水田の作付け転換が皆さんおっしゃっておられるよう進められて、ビニールハウス式に採卵鶏・採肉鶏の飼養がどんどん増えてくるということになると、需給がアンバランスになつてまたいつかのように大暴落するといった事態になりますので、中央でよくバランスをとつていただかないとい、あまりにも養鶏一辺倒になつてしまふと、養鶏界もお手上げという現実が現われてくるのじゃあないかと心配しているのです。

また、卵価の問題にからみまして、最近承知のように冷凍液卵が非常に多量に輸入されているのです。我々養鶏家は農林省なり輸入商社等へしばしば、日本で卵は十分生産されているし、しかも養鶏は利益のうすい企業であるのだから、

その上に外国のタンブリングの冷凍液卵を入れられたのではかなわない、ということを陳情しているのですけれども、一方マヨネーズ、パン業界等は液卵を入れてくれなくては困るという希望があるし、またガットの問題等もあって、これを阻止することはできないらしいのです。

昨年の一月から十月までに冷凍液卵が約二万トン輸入されておりますが、そのうちわけを申してみると、オーストラリアから六、一四三トン、南アフリカから二、二一三トン、イギリス五、〇六五トン、ポーランド四五〇トン、ニュージーランド四〇五トン、中国二一五トン、オランダ三二五トン、チェコ一一〇トンルーマニア八四トンという具合で、世界三宅・そこで問題になるのが、畜産も含めて日本の農業の国際競争力でしょう。貿易自由化になった時、はたして国際競争力に打ち勝って残れるものがあるかどうか、まさに心細いのですよ。

国内をみても、土地基盤整備は大切でしょうが、もう一つ問題は流通というパイプですね。岡山県の場合をみても、経済連が努力して肥育牛の預託を八、〇〇〇頭ばかりやっていますが、昨年末は暖冬異変もあったでしようが、パイプがつまってしまって売れないんですね。国

パイプの詰っている食肉流通

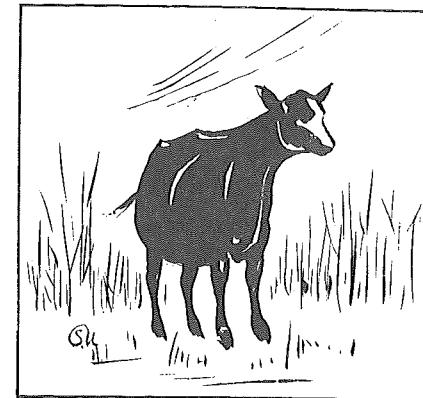
る食肉流通

の長期見とおしでは、肉は絶対足りないのだから増産しなければならないというアドバルンはあがっていながら、現実はちょっと増産するとパイプがつまってしまう。

将来を考えてみても、農家は国家目的に追従しておればよいといった考えではだめなわけでして、自分の生活の確立を追求する権利があるし、そのためには畜産をおおいに伸ばすというのなら、かなり思いきった交通整理をした畜産政策を打ちだすことが必要ですよ。

各國から日本をめざして入ってきているんです。これはますます増加の傾向にあります。大口消費のマヨネーズ、パン業界ではこれを歓迎しているのですね。この事実からすると、我々養鶏家も安閑としているられないわけで、もしこれがダンピングで入っているのならとても対抗できませんので、為政者としては我々の立場を考慮に入れてある程度セーブしてもらわないと、とんでもないことが起るんじゃないかと思うのです。

惣津・それに関して中央でもいろいろ努力しているようですが、貿易自由化品目ですから需要があるとどんどん入ってくるのですね。



待たれる肉用牛振興法

藏知・だから問題は、大型の公共牧野の作り方と、農家が所有している里山をも含めて利用できるような牧野の作り方と二とおりに分けて考えることが大切で、

男の子で、牛山に開拓して、かわらの木舟用
すべきじゃあないかと思うのです。肉用
牛ばかりでなく、酪農でも里山つづきの
運動場といったものが真剣に考えられて
きておりますから。

酪農と養鶏の頭痛のタネ

三宅・当初は基金協会に対しても出資するし、補填準備金に対しては畜産事業団が足あげをするといったもくろみだったのがだんだん後ぼみになり、国は出資しないで事業団が出資する、補填準備金は農家の共助制度みたいに積んで、積んだだけもらえるんだということで魅力が若干なくなってきたんですね。

現在全国で七県でできていて、今年中に二・三県は設立されるでしょうが、全国で一五県ぐらい設立されると、この制度に全国の生産子牛の七・八割が乗ることになるので、その段階で修正するなり補強する方向で、現在はこれに乗つてくれというのが国の意向のようです。

岡山県の場合も、このままでは不備ではあるが、皆んなで運動してここまでこぎつけてきたんだから何とかしようといふことで設立準備委員会が説明に回っておりまます。また反応調査もしましたが、金協会が設立されますが、これに対する反応はどうですか。

の一部がまだ出ておりませんが、二万一千〇〇〇頭程度の加入申し込みがあったのです。これは県内生産子牛の殆んど全頭ですから、これなら意義があると思うんです。やるからには全頭加入でがんばらないとね。

惣津・似たようなものに卵価安定基金もありますが、こういったものを法制化するなりなんなりしないと、現在のようにならぬことはない。畜産事業団だけの出資だけではどうにもなりませんよ。

三宅・肉用子牛安定基金の場合でも、こんな共助的制度で、法的な裏付けのないものはどうにもならないという話がでているのです。

そこで中央でも、肉用牛振興法といつたもので、生産基盤から流通に至るまでの、価格安定を含んだ基本法を早く作るべきだという意見と、現段階では時期尚早だから、生産問題はこうだ、価格問題はこうだといった柱を作っていくって、そしてそれらをまとめた振興法を作るほう

自己の経営改善に努力している酪農家もふえてきてはおりますが、一般はただ乳価が高ければよいといった考え方があるのですね。乳製品向け加工原料乳の乳価は法律である程度補償されており、北海道や東北のほうはよいのですが、岡山県のように九〇パーセント以上が市乳向地帯では指定生乳生産者団体とメーカーが乳価闘争しなければならないんですから、米の場合は相手が政府ですが、メーカーは企業体ですからね。今は無制限買入れですが、これが制限買入れにでもなったら大変なことになります。

現在、畜産事業団の倉庫には粉ミルクが一、五五〇万トンあまっており、バターリーも相当あまっています。ここ三年ぐらいの消費がすごいきおい伸びてきたから、環元乳でも間に合わそううが、農林省がどかっと入れた、つまり見とおしが悪かったのですよ。人間だから見よ

惣津・肉用牛振興については二二一～三

流通から消費へのハイフがつまっている
からです。日本の酪農はお天氣酪農とい
われています。酪農振興法ができている
現在、いまだにお天気酪農だからね。生
産乳の四・五割は価格補償がなされたが
残りの乳価はハチャキをしてマーカーと
闘争せえ、力の強いほうが勝つんだとい
うのが農林省の指導方針ですからね。こ
んなことを毎年くり返していくんではど
うにもならんですよ。

更に、末端の小売価格があがったもの
を、ノーカー、小売業者、生産者がぶん
どりっこをしているような価格形成が適
正といえるかどうかはなはだ疑問です。
酪農が貿易自由化の対象に一番多くなっ
ているだから、政府がどのくらいの保護し
てくれるのかわかりませんが、価格政策
の確立くらいは期してもらいたいですね

山上・醸農の場合は生産者が価格に対しある程度発言力をもっていますが、我々養鶏家の立場は全然発言力がなく、市場で支切られた価格で全てが支払われているのですよ。まあ考えてみて下さい。終戦時以来、畜産場で全然値上がりしていないものは卵とヒヨコだけですよ（笑）。これは養鶏家の犠牲のもとに継続されているわけで、我々は全主婦連から表彰状をもらわにゃいかんと思ふんですよ（爆笑）。

自衛上、個々の経済能力を向上させるために鶏 자체を改良し、飼養管理の面からも大羽数省力管理、機械力の活用によってカバーしていくっているわけです。終戦後では二〇〇羽も飼っておれば一家の生計が成り立っていましたが、現在では一万羽飼養しないとダメです。最近では大羽数飼養者は、各所でできております

スリバーと組んで、生産から消費へ直結のパイプをつなぎ有利に經營するといった努力もしているのです。

卵価安定基金にしても運営が一部のものに独占されてしまい、國家の資金であるながら一般のものには門戸が閉ざれてしまっているといった事態で、価格調整がも今後はある程度生産規制がともなわなないといかんと思っているのです。

現在農林省が行っている鶏卵出荷調整も卵価安定基金とは関係なしに運営されているし、更にこれは予算のついていかないものですからおおよそナンセンスなものとして、卵価安定基金の範囲をもとと拡大して、一般の養鶏家もこの制度の恩典がうけられるような機会を作つてもらいたいというのが我々の願いなんですね。

惣津・最近は消費者は王様だということ
で、消費行政も活発になっていますが、
私は消費者教育がもっと必要だと思ふん
ですよ。

生産者があり、流通業者があつて消費者
に移るのですから、生産者や輸送業者
はどうでもよい、我々は安けりゃあいい
んだ、安いのがいいのは事実ですが、こ
れではどうしちゃうもないですよ。生産者

王様のまき

玉樹のまゝに

安きを待つといった点が多いですからね。我々としても畜産物が高いのに越したことはありませんが、高すぎて売れなければ何にもなりませんから、惣津さんのお話にありましたように、適正な価格形成ということなどが大切でしょうね。どこが適正かとなるとむずかしい話になりますが生産者も消費者も納得できる価格ということになりますか。

よくいわれる例ですが、牛乳一本二〇円しているが、駅の番茶でも一杯二〇円するじゃあないか（笑）、ということになると牛乳はもっと高くてよいということになりますからね。

蔵知・行政を中心になんか生産者団体がパックアップして、もとと徹底した宣伝はやれないものでしょうかね。一般的の認識は低いですよ。酪農大学校に在職していた時のことですが、学校に来られた人に牛乳を出すのですよ。そうすると、この牛乳はうまいが市販の牛乳にはどのくらい水が混せてあるのですか、という質問がかなりの知識階級の人からくるのです（笑）。これを見ても一般的の認識がいかに低いかがわかりますね。

橋本・今までの消費宣伝は、せいぜい料理講習会ぐらいでしたからね。

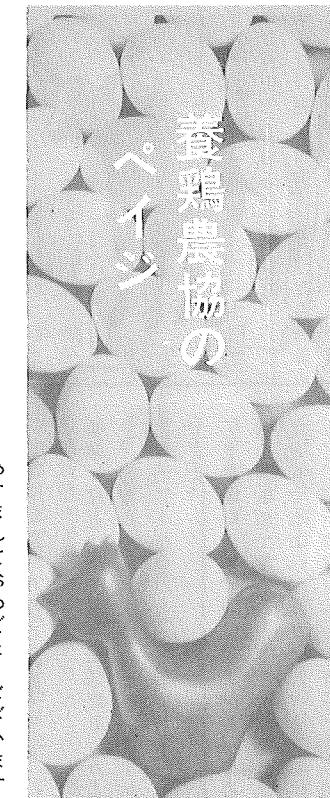
惣津・根本的なものを教えなければダメですよ。消費懇談会でも、市乳はうすい水をどのくらい入れているのかといった話をばかりでね。牛乳そのものの知識がまるでないんですよ。（二月号へ）

SQUIBB 増体と肉質の改善にすばらしく効く
 天然ホルモン肥育剤(耳根皮下移植剤)
シノベックス S(去勢牛用) H(雄牛用)

輸入元 日本スクイフ"株式会社 発売元 昭和薬品化工株式会社
東京都港区赤坂3丁目2番6号(赤坂中央ビル) 東京都中央区宝町1-5(味の素第一新館)

トリのサケの深いエニシ

* * *



卷之三

も、カシワをつまみながらこそ、慶祝の心いやまさんというものの、では、鶏に酒を飲ましてみましょう。飲み助の猿ではないから、目の前に美酒をおいても、鶏が自分からこれを飲むものではありません。コンタンのある彼女に、無理強いするときほどのテクニックは必要です。ジンフィーユやシャンパンに、砂糖を入れたり香りをつけて、うまく女の子に飲ませるあの手です。たとえば、醸酵飼料のように酒に似た香りをも、すぐころんでしまいます。ケージ飼育が多くなつて、こんな正月のこころみを観察できるのは種鶏場だけになりました。ケージ内の鶏に酒を飲ませると、産卵をもて遊んで愉快そうにしますが、時刻によつては卵塗をおこすことがあります。このごろはセチガラくなつて、正月でもこんなジョウダンゴトをする人がなくなりました。

名門 実一家の業力にし無出

以上二首

卷之三

（もつとも家鶏の祖先は赤色野鶏だけだという一元説もあり）しているのですから、鶏一家はげにも由緒正しい名門でもあります。

日本では、縄文式土器、彌生式土器や土偶では鶏の姿がみられず、祝部式（古墳時代）に至って、埴輪として出土されて鶏の存在が明らかにされています。しかし、古墳時代の遺跡は上層文化のそれが主であり、繩文、彌生式時代の遺跡は庶民文化のものといわれ、単に出土された土器の模様や土偶の形だけで鶏の存否を決めるることはできないそうです。それがあらぬか、彌生式時代の出土遺跡から鶏骨が発見されているし、一例だけが繩文晩期の遺跡（愛知県伊川津貝塚）からも鶏骨が出土されています。

養鶏は、一定の地域に農耕文化が定着したときみられるようになるといわれま

この時代は、紀元前二世紀から後三世紀の間で、朝鮮、中國と交渉を始めた時期であるので、その時代に養鶏がとり入れられたと考えるのは常識でしょう。この時代は、狩獵、漁労時代で騎馬民族が活躍し、農業文化を知らなかつた繩文式時代の遺跡からも鶏骨が出土される事実は、なお考古学者の研究をまたなればなりません。天の岩戸で常世の長鳴鶏を鳴かせたという神話は、その時代考証が困難ですが、鶏の考証から逆に神代時代を推察できるかも判りません。今日、一年に約四億羽の雛が孵化されるようになつた名門・日本・鶏一家の沿革は、連綿二千年的昔に始まつたといふのは、まず當を得たものではないでしようか。

この芦村のまじめな鶏が大好きなので、防火祈願や子供の夜泣き、百日せきの平癒、油虫駆除を祈願して奉納されたものだそうです。たくさん絵馬の中には、新しいものもまじっていました。このごろでも奉納している人があり、毎月二十八日には、何人かおまいりするのだそうです。

備中地方のある神社では、一番鶏が鳴いて鬼を退散させたという民話からとった素焼きの鶏が、戦前から売られていましたが、今年は特にたくさん作って出しました。大量に焼いたと暮の新聞に出ました。郵便切手を始め、数えきれぬ鶏のデザインが巷にハシランしています。この組合でも、鶏型の灰皿を数百個つくりました。

岡山市の商店街で育つたO生は、近所の商店主が、カクレで開鶏を楽しんでいたのを少年時代によく見ましたが、その人は、大きな商売をするとき、赤白の鶏

参集を求めて、鶏占によつて白鶏が赤鶏に勝つたので源軍についてたとありました。商家のダンナ衆が、鶏占に取引きの前途を託したとは、まだ遠くはない大正時代の世相の一こまです。

鶏は、神前に犠牲となつて供えられたり、副葬品として埴輪になつたりする神の側といふばかりではなく、鶏が神さまになる場合も少なくありません。この場合は、昔より今の方がかえつて多いのではないかでしょうか。養鶏家や養鶏団体等が、鶏魂碑や鶏靈碑を建立したり、鶏を祭る行事が各地で催されるようになつてゐるからです。そんな場合は、鶏魂や鶏靈そのものが神だと思えばいいと思っていたのですが、ある団体が、神社本庁に伺いをたてたところ、鶏が神になる場合

鷄が常に庶民と共にあり、しかも神の側にいたということは、神説や寓話をまづまでもなく、現在も生きています。戦災を免れたばかりにかえって荒廃した郊外の一偶に、名もさだかでないおヤシロやホコラを見出すことがあります。岡山市東郊操山麓の、住宅団地からも少しはずれたさみしい場所で行き当たった荒神さまも、そんなものでした。三宝荒神とは違う、この地方で戦前はよくみられた地荒神らしく、太い繩をぐるぐるまいに大樹の下にある、何ものとも知れぬ塙が祭つてあるのです。それが目についたのは、おびただしく供えられた絵馬の中には、鷄の絵馬がたくさん見られたからです。かまどの神さまに、鷄の絵馬はなんだろうかと、二キロほど離れた知人の養鷄家の家に立ち寄つて話を聞きました。

難に庶民の味方で神にも仕える

22

源平合戦のころ、陸戦では源氏が平家を追いまくつたが、強大な水軍を持つ平家を討つためには、どうしても水軍をもたないと最終的な勝利が得られません。當時平家に対当で戦える大水軍を擁していたのは、紀州田辺の熊野の別当湛増でした。両軍とも湛増を味方にしたいと、あらゆる権謀術数を駆使し、湛増の側で

ご神体の一つ、長鳴鶏が一般に歸われることは稀ですが、今年の元旦には、各地の愛好家や神社、動物園等で、長鳴鶏のたぐいなる東天紅、声良、薩摩鶏、小国、唐丸等が、さぞかしわが世の春を諷歌し、チャホヤされたことでしょう。もう一つの日奈鶏は、これが離だとするなら、その平和な声は天に地に満ち満ちています。おめでたいことです。一〇生一

を聯合させて吉凶を占っていました。それが鶏占と呼ばれるとは、後年大衆小説で知りました。
原平合戦のころ、塙戦では原氏が平家を敗れました。この事件は長鳴鶏と曰奈鶏の二種だと教示されたそうです。

養鶏試験場だより



日本家禽学会秋季大会 (一九六八年度) の講習から

技師 青山 寛

川島秀雄(東京農大)・錦織満

ルスワクチンB₁株の
予防接種について

ることが認められています。

去る十月十・十一日に鳥取市で日本家禽学会の秋季大会が開催され、鶏に関する数多くの研究発表がありました。その

中で、実用性の大きい研究発表について試験成績の概要を紹介して参考に供します。

試験の方法は採卵用鶏の雄ひな二六〇羽を、対照群、飲水投与群、スプレー開放式育すう舎群、スプレー無窓式育すう舎群の四群に分けて、ニューカッスル病B₁株生ウイルスワクチンを用いて、予防接種の相違による効果と安全性を比較検討するため、六十九日間にわたって試験を行なっています。

安部終吉(福岡県種鶏場)

その結果、

現在わが国の鶏痘予防接種は、鶏痘ワクチンの塗擦法によって行なわれて、顯著な成果をおさめていますが、この方法は人手を多く要します。そこで福岡県種鶏場は、米国等で行なわれている穿刺用鶏痘ワクチンを翼膜に穿刺して、鶏痘予防の省力化をはかるために試験を実施しています。試験は昭和四十三年六月十一日餌つけの白レグ雌ひな九九羽を用いて、日餌つけ後二〇日令に、A区は農林省動物医薬品検査所鶏痘ワクチンB₁用株を生理食塩水に溶解し、B区は米国サルスベ

リー社鶏痘ワクチンのチックーN-1ボックスをそれぞれ翼膜に穿刺し、C区は現行ワクチンの塗擦を行ない、D区は無処置の対照区とし、穿刺、塗擦七日目に反応状況の観察を行なっています。その結果、ワクチンの穿刺法によるA・B両区ともに明らかな穿刺反応をあらわし、転移発痘も認められず、順調な成績が得られています。

なお接種に要する時間は、翼膜穿刺法は塗擦法の約で極めて省力的な方法です。

①、四日令にB₁株を飲水投与した後、四週令でスプレーによって予防接種する方法は、無窓、開放の両育すう舎において、放式育すう舎群、スプレー無窓式育すう舎群の四群に分けて、ニューカッスル病B₁株生ウイルスワクチンを用いて、予防接種の相違による効果と安全性を比較検討するため、六十九日間にわたって試験を行なっています。

②、スプレーによるB₁株の予防接種によつてH-I坑体価の上昇が明らかであるばかりでなく、その持続の期間が長いことが認められ、四日令飲水、四週令スプレーの方式はニューカッスル病予防のためのワクチネーション・プログラムとして

すぐれていることが認められています。従来から実施されている絶食・絶水による方法と差がなく、技術的、労力的に容易なことから十分な効果が期待されます。

③、四日令ならびに四週令の二回とも、飲水投与によってB₁株を予防接種する方法も有効と認められていますが、スプレーによる方法を比較すれば、その効果は劣ることが認められています。

◎ ICI 33による強制換羽試験

石垣良三他三名(岐阜県種鶏場)・中条誠一(名大農)・山田行雄(白河種畜牧場)

一般的に初産日令をおくらせますと、初産卵重量が大きくなり、初産日令も齊一になり有利であると言えられます。また二年鶏の産卵を一時休ませることにより卵価の高い時期に卵を生ませることができます。これが経営上有利であります。

②、脱羽の進行状況は対照区は緩慢で脱羽不完全な個体が多く認められていますが、ICI区は五日間は脱羽がなく、六日目より落下しはじめ、八日目に大量に落ち、九日目には主翼羽が完全に脱羽しています。

③、試験開始より産卵再開までの日数は〇日目以降一日一羽あたり三〇グラム、五〇グラム、八〇グラムと飼料給与量を遂次増加し、一三日目より自由摂取させています。ICI区は試験開始より一四日間ICIを一五〇PPM添加した飼料を自由接種させ、その後普通飼料に切りかえています。試験期間は昭和四十二年九月一日から昭和四十三年六月三十日までで、試験期間中一五時間一定の点灯管を管理をしています。

鶏の強制換羽の方法について、従来から絶食・絶水等を行なうことによって実施させていましたが、石垣らはICI 33(英国ICI社開発の薬品番号で以下ICIと記す)による強制換羽について試験を実施しています。試験の方法は昭和四十一年二月二十七日ふ化の白レグ種をふ化後五五〇日令で二区にわけており、対照区は試験開始後二日間絶食、絶水させ、その後七日間は水のみ与え、一日目以降一日一羽あたり三〇グラム、五〇グラム、八〇グラムと飼料給与量を遂次増加し、一三日目より自由摂取させています。ICI区は試験開始より一四日間ICIを一五〇PPM添加した飼料を自由接種させ、その後普通飼料に切りかえています。試験期間は昭和四十二年九月一日から昭和四十三年六月三十日までで、試験期間中一五時間一定の点灯管を管理をしています。その結果、

その後の影響について

小宮山鉄朗・宮国幸男・尾治昌治・大西靖彦(農林省畜試)

一般的に初産日令をおくらせますと、初産卵重量が大きくなり、初産日令も齊一になり有利であると言えられます。また二年鶏の産卵を一時休ませることにより卵価の高い時期に卵を生ませることができます。これが経営上有利であります。

②、脱羽の進行状況は対照区は緩慢で脱羽不完全な個体が多く認められていますが、ICI区は五日間は脱羽がなく、六日目より落下しはじめ、八日目に大量に落ち、九日目には主翼羽が完全に脱羽しています。

③、試験開始より産卵再開までの日数は〇日目以降一日一羽あたり三〇グラム、五〇グラム、八〇グラムと飼料給与量を遂次増加し、一三日目より自由摂取させています。ICI区は試験開始より一四日間ICIを一五〇PPM添加した飼料を自由接種させ、その後普通飼料に切りかえています。試験期間は昭和四十二年九月一日から昭和四十三年六月三十日までで、試験期間中一五時間一定の点灯管を管理をしています。

鶏の強制換羽の方法について、従来から絶食・絶水等を行なうことによって実施させていましたが、石垣らはICI 33(英國ICI社開発の薬品番号で以下ICIと記す)による強制換羽について試験を実施しています。試験の方法は昭和四十一年二月二十七日ふ化の白レグ種をふ化後五五〇日令で二区にわけており、対照区は試験開始後二日間絶食、絶水させ、その後七日間は水のみ与え、一日目以降一日一羽あたり三〇グラム、五〇グラム、八〇グラムと飼料給与量を遂次増加し、一三日目より自由摂取させています。ICI区は試験開始より一四日間ICIを一五〇PPM添加した飼料を自由接種させ、その後普通飼料に切りかえています。試験期間は昭和四十二年九月一日から昭和四十三年六月三十日までで、試験期間中一五時間一定の点灯管を管理をしています。その結果、

一般的に初産日令をおくらせますと、初産卵重量が大きくなり、初産日令も齊一になり有利であると言えられます。また二年鶏の産卵を一時休ませることにより卵価の高い時期に卵を生ませることができます。これが経営上有利であります。

②、脱羽の進行状況は対照区は緩慢で脱羽不完全な個体が多く認められていますが、ICI区は五日間は脱羽がなく、六日目より落下しはじめ、八日目に大量に落ち、九日目には主翼羽が完全に脱羽しています。

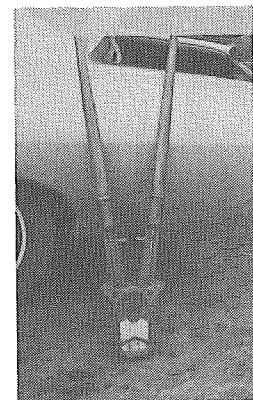
③、試験開始より産卵再開までの日数は〇日目以降一日一羽あたり三〇グラム、五〇グラム、八〇グラムと飼料給与量を遂次増加し、一三日目より自由摂取させています。ICI区は試験開始より一四日間ICIを一五〇PPM添加した飼料を自由接種させ、その後普通飼料に切りかえています。試験期間は昭和四十二年九月一日から昭和四十三年六月三十日までで、試験期間中一五時間一定の点灯管を管理をしています。

鶏の強制換羽の方法について、従来から絶食・絶水等を行なうことによって実施させていましたが、石垣らはICI 33(英國ICI社開発の薬品番号で以下ICIと記す)による強制換羽について試験を実施しています。試験の方法は昭和四十一年二月二十七日ふ化の白レグ種をふ化後五五〇日令で二区にわけており、対照区は試験開始後二日間絶食、絶水させ、その後七日間は水のみ与え、一日目以降一日一羽あたり三〇グラム、五〇グラム、八〇グラムと飼料給与量を遂次増加し、一三日目より自由摂取させています。ICI区は試験開始より一四日間ICIを一五〇PPM添加した飼料を自由接種させ、その後普通飼料に切りかえています。試験期間は昭和四十二年九月一日から昭和四十三年六月三十日までで、試験期間中一五時間一定の点灯管を管理をしています。

鶏の強制換羽の方法について、従来から絶食・絶水等を行なうことによって実施させていましたが、石垣らはICI 33(英國ICI社開発の薬品番号で以下ICIと記す)による強制換羽について試験を実施しています。試験の方法は昭和四十一年二月二十七日ふ化の白レグ種をふ化後五五〇日令で二区にわけており、対照区は試験開始後二日間絶食、絶水させ、その後七日間は水のみ与え、一日目以降一日一羽あたり三〇グラム、五〇グラム、八〇グラムと飼料給与量を遂次増加し、一三日目より自由摂取させています。ICI区は試験開始より一四日間ICIを一五〇PPM添加した飼料を自由接種させ、その後普通飼料に切りかえています。試験期間は昭和四十二年九月一日から昭和四十三年六月三十日までで、試験期間中一五時間一定の点灯管を管理をしています。

アメリカ・カナダ旅行記

(その七) ナガイ アンド ハナオ



角折断器
(ミツドランド牧場にて)

18 日本びいきの 酪農場

(1) カル・クラーク牧場

カル・クラーク牧場は、カリフォルニア州ハンフォード一〇番通り一五、九六四で州の略中央部にあたるところにあり、ロスアンゼルスとサンフランシスコの両市から同じ距離といつてよいだろう。牧場主からもらった案内書によると、この牧場の乳牛群はアメリカ西部で最古の、歴史ある登録牛群であり、一八八〇

年には創立者の孫にあたる。この農場での飼料栽培には、夏期に灌水が必要であるが、機械化により自家生産を行っている。夏は高温のため、泌乳牛の牛は舎飼しており、飼料として良質のルーサン乾草を自由採食として与えている。また青刈ルーサンも給与するが、これのきれるときはコーン・サイレージを利用し、穀物は少しだけ能力に応じて与えている。

彼ビル・クラーク氏は、酪農経営安定には牛乳生産が必須だから、乳牛はすぐれた乳器と肢、性質をもち、そして繁殖能力をもっていなければならぬし、それには正しい農場管理がなされないと立派な成績はあげられない、しかも、長期にわたる生涯の能力を背景にもつた種牡牛の使用がされることである、といつていている。

彼はケタはずれの親日家であり、カリフォルニヤにおける若手ブリーダーとしてのホープである。代表的酪農家としての名声がある。奥さんとはハワイで結婚し、日本にやってきて日本の勉強をしたという。

彼の家は日本式につくり、石燈籠に庭石を並べ家の入口に京都の橋になぞらえて擬宝付ランカンの橋がある。一步室にはいるこれまで驚く日本調で、よくこれだけ集めたものと感心させられた。古ぼけた昔の金具つきタンス、ソリ金、田植、稻刈りの画、千代田城大奥の軸、金

年代に現在の牧場の創立者に、結婚の贈り物として一頭の子牛が贈られた、これがその出発であった。過去五六年間にわたり、ひたすらに、ひたすらに、純粹繁殖の計画を実行し、他から導入したのは極めて少数で、自家生産により良い牛の作出に努めた。

現在の乳牛群は公的に格付けされ、能力検査を受け長年にわたって厳密な飼養管理を続けて今日にいたっている。その結果、州のチャンピオンや、数頭のオール・アメリカンに推されている。

最初のおす牛の一つは、一九三一年エルムウッド牧場から導入された。これが第八六キング・ベッシー・オームスピーリ・ピーター・チエであった。この偉大な種おす牛は一二年間にわたって供用され、三〇頭の娘牛をのこしたが、平均で生涯能力一三万五、〇四一ポンドの乳量をあげ、五、〇一二五・三ポンドの脂肪を生産し、体格審査の平均は八四点であった。この種おす牛の遺伝力は、子牛たちに強くあらわれ、一〇万ポンド級の牛乳生産娘牛を多く生産した。これまでにも一〇

万ポンド以上の記録をもつ乳牛を一六六頭生産飼養しており、これは乳牛の価値をはかる立派な尺度となる。その後の主なおす牛は、ハーシュ・ロメオ・ビュートー・ウェインである。通称ロメオといった。このロメオはゴール

ド・メタル・エクセレント牛の父となり、のちにアメリカ繁殖者サービス機関で供された。また、母牛はアメリカで最高の得点をもつ系統の出であつた。このおす牛の娘牛たちのうち六頭はすでに一〇万ポンド以上の産乳を示し、うち三頭はゴールド・メダルに輝いている。現在の牛群の大半は、このおす牛の系統である。凍結精液の実用化と同時に、この牧場ではいち早くエクセレント級ゴールド・メダルをもつレー・ブン・バーク・アイデアルとロザーフ・マジック・シャン号の二頭を人工授精用に用い、アメリカ全土に大きな影響をおよぼした。

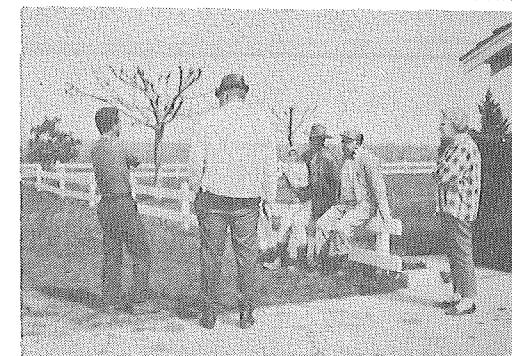


ビル・クラーク夫妻

前述の二頭のほかにもクラーク牧場の牛群に非常な影響を与えた種おす牛は数多く、これらはいずれも体型の優秀さ、乳房のすばらしさが高い評価をうけており、撲殺されている登録娘牛たちも優れた血をひく子牛を産み将来が期待されている。

最近の牛群の成績をみると、すべて自家産でエクセレント級九頭、ベリー・グッド級三五頭となつており、毎年二〇頭程度の牛が売られている。これまでにゴールド・メタルめす牛一一頭、おなじくおす牛三頭とノルバー・メタルおす牛数頭を育成してきた。

現在の牧場主ビル・クラーク



ミツドランド牧場の人達

一・ロードルート二、一九四〇にある。我々は何回かこの牧場をたずねる機会があつた。牧場生産の種おすが何回か香川県購買になつてゐる関係、特に香川との縁のつながりが強い。金子香川県知事もこの家を訪問されたと聞く。

この家の応接間には日本から送られた数々の品が離段にうず高く並べられて、それを誇りとしているようである。また、この家族は老夫妻を初め牧場主兄弟、その子供達まで日本を訪れている。本年四月中旬、購買牛第二船の護送で弟夫婦がやってきている。(岡山にも)十月開催された全国ジャージー共進会には、弟フレリップ・バド氏の三男が蒜山を訪れて、老妻(五三才の牧場主はママ、ママと呼びあまえている)がしつかり者であり、手料理を特意とし、一夕我々日本人の面倒を見てくる。現在の農場経営は兄弟の協業であり、兄は育成と種牛を主とし、弟は搾乳牛の経営(果樹園をもつ)に当つている。

この親子は親日家として知られ、よく日本への面倒を見てくれる。現在の農場経営は兄弟の協業であり、兄は育成と種牛を主とし、弟は搾乳牛の経営(果樹園をもつ)に当つている。

我が一行がサンフランシスコ空港に着いた時、一三〇マイルの道を早朝、七〇〇〇〇万以上?)で出迎えてくれ、ホテルに案内の労をとつてくれたのである。

彼の家はモデストの近くシリス・キンザ

岡山畜産便り (一月号)

昭和四十四年一月一日発行
(通巻第百九十七号)

第二〇巻 第一號

編集人 蔡 知 裕

発行人 惣 津 律 士

編集人 蔡 知 裕

発行所 岡山市桑田町一の二

電話岡山⑧八五七五番

ふじや高速印刷所

第一部五十円(送料共)

定価